

令和2年度
第6回一関市スポーツ推進審議会

日時 令和3年3月12日（金）

午後2時～3時

場所 一関市総合体育館会議室2・3

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 議 事

(1) (仮称)一関市スポーツ推進計画の策定について

① 最終案について

4 答 申

5 挨 拶

6 閉 会

スポーツ推進審議会委員名簿

氏名五十音順（敬称略）

No.	役職名	氏名	性別	推薦団体名等	役職名
1	会長	吉家 義博	男	(略)	
2	副会長	廣長 千鶴子	女		
3	委員	阿部 稔	男		
4	委員	伊東 三四司	男		
5	委員	上野 文枝	女		
6	委員	江刺 邦昌	男		
7	委員	大和田 コト	女		
8	委員	佐々木 由紀子	女		
9	委員	佐藤 伸哉	男		
10	委員	佐藤 隆一	男		
11	委員	澁谷 喜一	男		
12	委員	菅原 芳久	男		
13	委員	田村 純一	男		
14	委員	千田 真也	男		
15	委員	千葉 京子	女		
16	委員	千葉 整一	男		
17	委員	千葉 美幸	女		
18	委員	中野 信雄	男		
19	委員	萩田 進	男		
20	委員	皆川 啓	男		

事務局

職名	氏名
まちづくり推進部長	佐藤 孝之
まちづくり推進部次長兼スポーツ振興課長	猪股 悦子
スポーツ振興課スポーツ振興係長	滝澤 清
スポーツ振興課主任主査	後藤 美佳
スポーツ振興課主任主事	上木 達也
スポーツ振興課主事	大瀬 浩平

一関市スポーツ推進計画

令和3年度～令和7年度

(最終案)

令和3年3月

一 関 市

目次

第1章 計画の概要

1 計画策定の背景及び趣旨	2
2 計画の位置づけ	3
3 計画の期間	4
4 本計画におけるスポーツの定義	4

第2章 本市のスポーツの現状と課題

1 市民のスポーツ活動について	
1-1 市民のスポーツ活動の実施状況	6
1-2 市民のスポーツ活動を支える団体等	7
1-3 スポーツ教室等の開催	10
1-4 子どもの体力の現状とスポーツ活動	11
1-5 高齢者や障がい者のスポーツ活動	13
2 競技スポーツについて	
2-1 スポーツ選手や指導者の育成	15
2-2 スポーツ大会の開催・支援	15
2-3 競技スポーツの現状と課題（懇談会より）	16
3 スポーツ施設について	
3-1 市のスポーツ施設の現状	18
3-2 学校体育施設の活用	19
3-3 市のスポーツ施設への要望	19
4 スポーツを通じた交流について	21
5 市のスポーツの推進に対するニーズ	
5-1 市民が期待するスポーツの推進	22
5-2 ワークショップでの意見等	23
6 現行計画の主な成果のまとめ	25

第3章 基本理念と基本目標

1 基本理念	28
2 基本目標	28

第4章 目標達成に向けたプロジェクト

1 施策の体系	30
2 重点プロジェクト	31
3 SDGsを踏まえた取組	31
4 スポーツ推進施策の展開	
1) 生涯を通じたスポーツの推進	32
2) 競技スポーツの推進	35
3) スポーツ団体等の育成・支援	36
4) スポーツ交流の推進	38
5) スポーツ施設の利用促進	39

第5章 計画の推進

- 1 計画の達成度を測る指標 42
- 2 計画の推進体制 42
- 3 計画の進行管理 44
- 4 新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた事業の推進 44

資料編

- I スポーツに関する市民アンケート調査
- II スポーツ関係団体等との懇談会
- III 一関市のスポーツを考えるワークショップ
- IV 一関市スポーツ推進審議会条例
- V 一関市スポーツ推進審議会委員名簿
- VI 計画策定の経過
- VII スポーツ施設一覧
- VIII SDGsにおける17のゴール

第1章 計画の概要

- 1 計画策定の背景及び趣旨
- 2 計画の位置づけ
- 3 計画の期間
- 4 本計画におけるスポーツの定義

第1章 計画の概要

1 計画策定の背景及び趣旨

スポーツは、人々が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠なものであり、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことはすべての人々の権利であると、スポーツ基本法に規定されています。

また、スポーツの果たす役割は、爽快感、達成感、仲間との連帯感などの精神的充足と、体力向上、健康の保持増進といった心身の両面にわたる効果だけでなく、スポーツを通じた地域コミュニティの活性化、スポーツを活用した交流人口の増加や地域活性化といった、社会的効果への期待も高まっています。

近年、ライフスタイルの変化や少子高齢化の進行などの急激な社会情勢の変化に伴い、スポーツを取り巻く環境も大きく変化してきました。このような中、国では、平成29（2017）年度から令和3（2021）年度までの5年間を計画期間とする第2期スポーツ基本計画を策定し、各種施策が進められています。

令和元（2019）年度には、日本代表選手の活躍で大きな盛り上がりを見せ、岩手県も開催地となった「ラグビーワールドカップ2019」が開催され、また、令和3（2021）年度には「東京2020オリンピック・パラリンピック」の開催が予定されており、これらを契機としてスポーツへの関心が大きく高まることが期待されます。

また、岩手県では、平成31（2019）年度から令和5（2023）年度までの5年間を計画期間とする岩手県スポーツ推進計画が策定され、「スポーツの推進による県民誰もが健やかで輝く岩手の創造」を目指す姿として、具体的な施策が展開されています。

本市においては、平成28（2016）年度からの10年間のまちづくりの指針となる「一関市総合計画」を策定し、「みつけよう育てよう 郷土の宝 いのち輝く一関」の将来像の実現に向けて、前期5年間の施策の展開を体系的に示した「総合計画前期基本計画」を踏まえ、各分野別計画による施策が進められてきました。

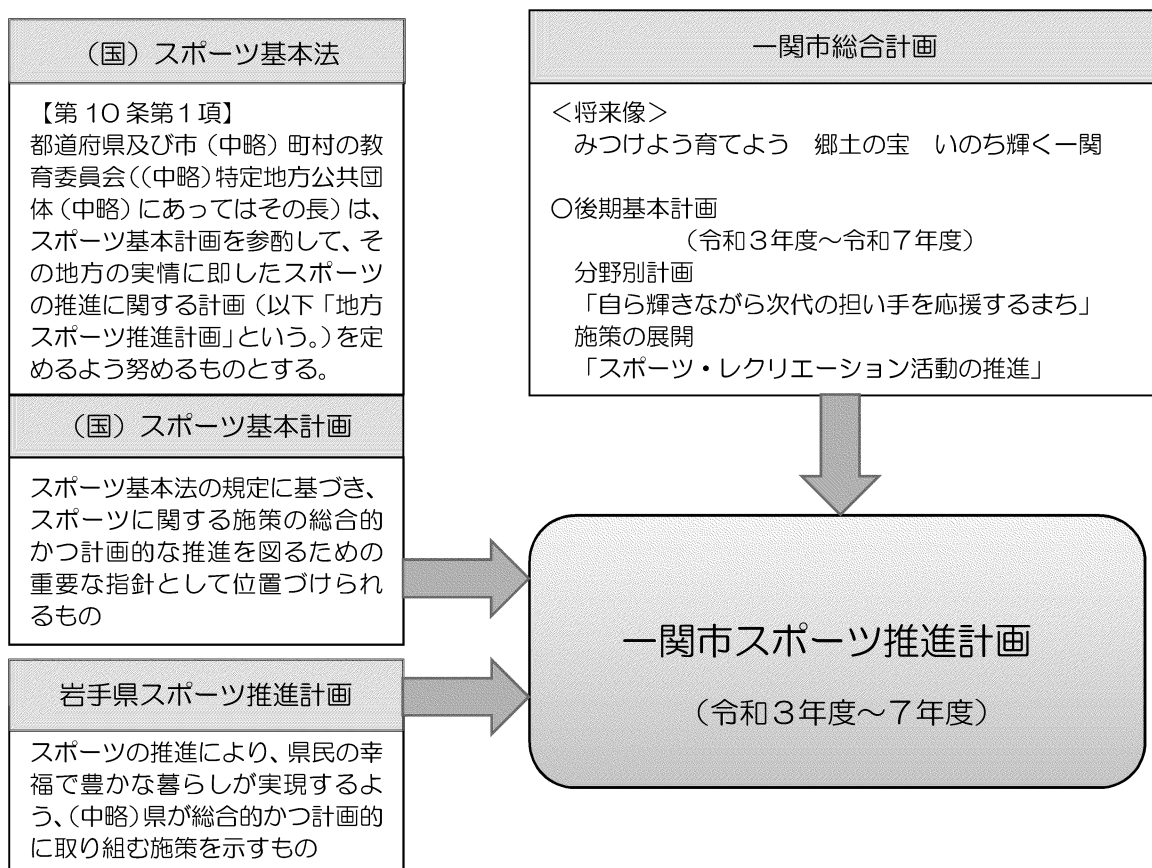
そして、この一関市総合計画を上位計画として、平成28（2016）年度から5年間を計画期間とした「一関市生涯スポーツ振興計画」を策定し、「地域に根ざした生涯スポーツの振興」を基本目標に掲げ、スポーツ振興の施策に取り組んできました。

この度、現行計画の計画期間が令和2（2020）年度で終了することから、令和3（2021）年度から後期5年間の計画期間の施策を示した「総合計画後期基本計画」を踏まえながら本市のスポーツ施策を体系的・計画的に推進するため、新たに「一関市スポーツ推進計画」を策定するものです。

2 計画の位置づけ

本計画は、スポーツの施策に関する基本事項を定めた「スポーツ基本法」（平成23年8月施行）の第10条に規定されている「地方スポーツ推進計画」として策定するもので、本市におけるスポーツの推進の基本的な方向性を示すものです。

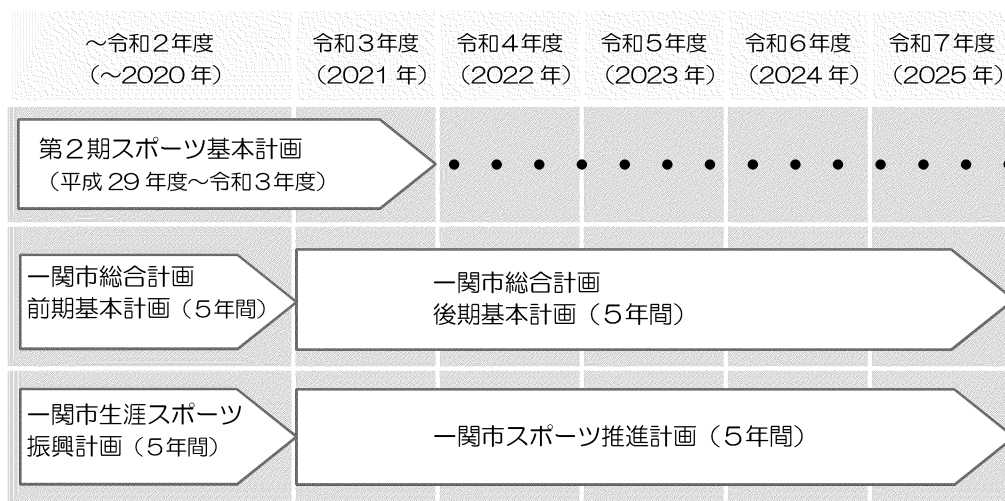
また、「一関市総合計画」を上位計画として、本市が目指すまちづくりの実現に向け、本市のスポーツに関する施策を具体的に示す個別計画です。



3 計画の期間

計画の期間は、令和3（2021）年度を初年度とし、令和7（2025）年度までの5か年とします。

この間、計画の進捗状況、社会情勢の変化、スポーツを取り巻く環境の変化などにより施策の見直しが必要となった場合には、適宜、見直していくこととします。



4 本計画におけるスポーツの定義

スポーツ基本法では、

「スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵（かん）養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動」

であるとされています。

本計画では、スポーツをこの定義と同様に捉え、一定のルールに則り勝敗や記録を競う競技としての活動のほか、レクリエーションとして仲間と気軽に楽しみながら身体を動かす活動、ジョギング、体操、散歩、健康や体力づくりを意識しながら行う身体活動なども、「スポーツ」として定義することとします。

第2章 本市のスポーツの現状と課題

- 1 市民のスポーツ活動について
- 2 競技スポーツについて
- 3 スポーツ施設について
- 4 スポーツを通じた交流について
- 5 市のスポーツの推進に対するニーズ
- 6 現行計画の主な成果のまとめ

第2章 本市のスポーツの現状と課題

1 市民のスポーツ活動について

1-1 市民のスポーツ活動の実施状況

令和2年度に、18歳以上の市民を対象に実施した「一関市民のスポーツ活動に関するアンケート」の結果（以下「アンケート結果」という。）では、週に1～2日程度以上スポーツを行っている人の割合（下の表の選択肢1～3を選択した人）は28.8%となり、国のスポーツ基本計画が目指す65%程度（成人の週1回以上のスポーツ実施率）を大きく下回る結果となっています。

▶ あなたは、スポーツをどの程度行っていますか（1つ選択）

選択肢	回答数	割合
1. 毎日	22	5.9%
2. 週に3日以上	30	8.1%
3. 週に1～2日程度	55	14.8%
4. 月に1～3日程度	36	9.7%
5. 年に数回程度	64	17.2%
6. ほとんど行っていない	164	44.1%
無回答	1	0.2%

資料：令和2年度「一関市民のスポーツ活動に関するアンケート」

また、スポーツをする理由は、多い順に、「健康・体力の維持（32.0%）」、「楽しいから、好きだから（19.1%）」、「ストレス解消、気分転換（14.9%）」となっています。

主に行っているスポーツは、「散歩やウォーキング、徒歩での通勤・通学・買い物」が38.6%で最も多く、次いで「競技スポーツ」が21.8%となっています。

一方、スポーツを「ほとんど行っていない」と答えた人の割合は44.1%で、「月に1～3日程度又は年に数回程度」と答えた人（上の表の選択肢4又は5を選択した人）を合わせた71%の人がスポーツをあまりしていない理由は、「仕事や家事、育児などで時間がない（44.3%）」が最も多くなっています。また、条件が整えばやってみたいと思うスポーツは、「散歩やウォーキング」、「ヨガ・エアロビクス・アクアエクササイズなど」、「競技スポーツ」がおおむね同程度の割合となっています。

■課題■

市民のスポーツ実施率は低い傾向にあることから、年齢、好み、体力、ライフスタイルなどに応じて、より多くの人々がスポーツ活動を行える環境を整え、スポーツの実践につなげる必要があります。

- ・スポーツによる健康の維持増進に対応した、日常的に行える軽運動等の普及・推進
- ・スポーツの楽しさを感じ、継続して実践することにつながるような機会の創出 など

1-2 市民のスポーツ活動を支える団体等

(1) 一関市体育協会

一関市体育協会は、本市のスポーツ施策の中核的な役割を担っており、各種スポーツ事業の実施やスポーツ施設の運営管理を行っています。また、構成団体である一関市スポーツ少年団や、加盟団体である種目別競技協会及び各地区体育協会の育成や活動支援を行いながら、相互に連携し、市民の競技スポーツやスポーツ・レクリエーション活動を推進しています。

(2) 種目別競技協会

市内には種目別競技協会が 32 団体あり、選手の育成や競技力強化を図る事業等の実施、指導者育成を図る講習会等の開催、競技人口拡大に向けた普及活動などを行い、市民のスポーツ活動を支えています。

種目別 競技協会	一関市陸上競技協会 一関市水泳協会 一関市サッカー協会 一関市テニス協会 一関市バレーボール協会 一関市体操協会 一関市バスケットボール協会 一関市ソフトテニス協会 一関市卓球協会 一関市野球協会 一関柔道協会 一関市ソフトボール協会 一関市バドミントン協会 一関市弓道協会 一関クレール射撃協会 一関市剣道協会 一関ラグビーフットボール協会 一関市フェンシング協会 一関市空手道連盟 一関市ボウリング協会 一関市ゲートボール協会 一関市ゴルフ協会 一関市スキー協会 一関市グラウンドゴルフ協会 一関市少林寺拳法協会 一関市朝野球協会 一関市パウンドテニス協会 一関市パークゴルフ協会 一関市バタック協会 いちのせき歩こう会 一関市スポーツウエルネス吹矢協会 一関市インディアカ協会
-------------	---

資料：一関市体育協会

(3) 地区体育協会

市内には地区体育協会が 39 団体あり、市体育協会などと連携してスポーツ行事等を開催し、地域住民が身近な場所でスポーツに親しむ機会の創出や、活動を通じた健康づくり、体力づくり、地域交流などを推進しています。しかしながら、人口減少、少子高齢化、趣味の多様化などの影響を受け、多くの行事で参加者が減少しています。

地域	一関	花泉	大東	千厩	東山	室根	川崎	藤沢	計
団体数	14	7	6	4	1	5	1	1	39

資料：一関市体育協会

(4) スポーツ推進委員

スポーツ推進委員は、PTA行事や自治会の交流事業、高齢者の介護予防教室などでニュースポーツや軽体操の実技指導を行っており、市民に身近な立場で地域スポーツを支え、推進する役割を担っています。また、県の研修会などへの参加や自主研修会などを通じて資質向上に努めています。

派遣事業の利用団体からは、楽しく行事を行うことができたという感想が多く聞かれ、繰り返し活用されている現状もありますが、一方で、アンケート結果では、「スポーツ推進委員を知らない」という回答が6割を占めており、推進委員の役割や活動について、また、推進委員の知名度の

向上や周知についての課題があります。

○ 事業実績

	PTAや自治会等の行事、 スポーツイベント等への派遣事業		シルバーニュースポーツ健康増進 事業（介護予防教室への派遣事業）	
	事業数	派遣した人数	実施回数	対象者数
平成 29 年度	138 事業	延べ 446 人	32 回	517 人
平成 30 年度	114 事業	延べ 465 人	34 回	576 人
令和元年度	119 事業	延べ 401 人	27 回	451 人

資料：一関市スポーツ振興課

○ スポーツ推進委員との懇談会で出された課題や意見

役割や活動について
<ul style="list-style-type: none"> ・地域での活動において、スポーツ推進委員にできることがもっとあると思う。スポーツ推進委員の役割をもう少し明確にしてほしい。 ・現在の活動が派遣要請に応えることに限定されている。 ・自分が従事した活動以外の部分が見えにくいので、各地域での派遣の活動状況や他自治体での活動情報などをスポーツ推進委員全体で共有することで、今後の活動の向上につなげられるのではないかな。 <p style="text-align: right;">など</p>
知名度の向上や周知について
<ul style="list-style-type: none"> ・春に学校のPTAが集まるような機会での周知や、市の広報を活用するのもいいのではないかな。 ・競技指導の自主研修などを行っているが、活用できる場があまりない。市体育協会、競技協会、学校などへの橋渡しがあれば活動の場が広がり、知名度の向上にもつながるのではないかな。 <p style="text-align: right;">など</p>

(5) 総合型地域スポーツクラブ

総合型地域スポーツクラブは、地域住民によって自主的・主体的に運営されるスポーツクラブで、スポーツの振興やスポーツを通じた地域づくりに向けて多様な活動を展開し、地域スポーツの担い手としての役割を果たしています。

本市では、令和2年度現在、3つのクラブが活動しており、競技大会の開催、フットサルスクールの運営、体操教室の開催などの活動を行っています。市民の身近なスポーツ活動の場として総合型地域スポーツクラブが担う役割への期待が高まっていますが、活動メニューの多様化、安定した活動場所の確保、活動のための人材や資金の確保、他のスポーツ団体との連携などが課題となっています。

団体名	設立年	会員数	活動内容
藤沢町体育協会	平成 22 年	藤沢地域の世帯	競技協会が主体となった活動 各種競技大会等の開催 など
NPO法人ファンスポ ルト一関	平成 23 年	113 名 (スポーツ事業)	フットサルスクール、フットサルチーム ヴィヴァーレー関の運営 など

NPO法人グッジョブ クラブ	平成27年	80名	スポーツウエルネス吹矢教室、わくわく 体操教室の開催 など
-------------------	-------	-----	----------------------------------

資料：2018年版 岩手県総合型スポーツクラブガイド（岩手県広域スポーツセンター作成）

■課題■

- ・本市のスポーツ振興の中核を担う市体育協会の活動を支援するとともに、市と市体育協会が密に連携し、市民のスポーツ活動の推進に向けた有効的、効率的な取組を行っていくことが必要です。
- ・種目別競技協会や地区体育協会の課題やニーズを把握しながら活動強化などに対する支援を行い、市民の継続的なスポーツ活動につなげる必要があります。
- ・スポーツ推進委員の周知を図るとともに、活動内容の検討と資質向上に努めながら活躍の場を広げ、身近な地域での市民のスポーツ活動を推進することが必要です。
- ・地域に密着し、多様なスポーツ活動やコミュニティの核となる総合型地域スポーツクラブの設立や活動を支援し、市民が日常的にスポーツに親しむ環境を整備することが必要です。

(略)

1-3 スポーツ教室等の開催

本市では、市民のスポーツ活動を推進するため、市体育協会に委託して様々なスポーツ教室やスポーツ・レクリエーション普及事業を実施しています。

スポーツ教室 (生涯スポーツ推進事業)	エアロピクス、ヨガ、ピラティス、アクアウォーキング、イブニングゴルフ、初心者のための登山、ジュニア体操、ジュニア水泳 など
スポーツ・レクリエーション普及事業	市民マラソン大会、市民体育大会、ソフトボール大会、ソフトバレーボール大会、市民登山、駅伝競走大会、卓球大会 など

○ 事業実績

年度	スポーツ教室	延べ参加人数	スポーツ・レクリエーション普及事業	延べ参加人数
平成 29 年度	38 教室	2,493 人	32 事業	15,690 人
平成 30 年度	38 教室	2,418 人	32 事業	17,846 人
令和元年度	38 教室	2,362 人	28 事業	13,132 人

資料：指定管理に関する事業報告書

しかしながら、アンケート結果では、「実施していることは知っているが参加したことはない」、「実施していることを知らない」と回答した人が、合わせて75.3%となっています。

参加したことがない人の理由は、「都合が合わない(35.7%)」が最も多く、「スポーツ教室は平日や日中のものが多く、仕事をしていると参加できないことが多い」、「託児ありのスポーツイベントや教室があるといい」などの意見が出ています。また、「興味がない(23.4%)」、「参加したい内容のものがいい(9.9%)」という回答も多く見られました。

今後、実施してほしいものは、「小中高生、初心者、高齢者などの段階に応じた教室や行事」、「ヨガ・エアロピクスなどの教室」が上位となりました。

▶ あなたが参加してみたい、あるいは今後実施してほしいスポーツ教室等がありますか (複数回答可)

選択肢	回答数	割合
1. 競技スポーツの教室	58	15.6%
2. ニュースポーツの教室	45	12.1%
3. ヨガ・エアロピクスなどの教室	83	22.3%
4. 親子で楽しめるもの	55	14.8%
5. 小中高生、初心者、高齢者などの段階に応じた教室や行事	90	24.2%
6. 健常者も障がいのある方も一緒に参加できるもの	27	7.3%
7. その他	13	3.5%
8. 特にない	113	30.4%
無回答	18	4.8%

資料：令和2年度「一関市民のスポーツ活動に関するアンケート」

■ 課題 ■

- ・市民ニーズの的確な把握と効果的な周知を図りながら参加しやすい事業を実施し、楽しみながら積極的にスポーツに親しむ環境をつくることが重要です。
- ・働き盛りの世代や子育て世代のスポーツ活動を促進するため、実施の内容や方法を工夫しながら、各種事業を実施することが求められています。

1-4 子どもの体力の現状とスポーツ活動

スポーツ庁が、毎年度、小学5年生及び中学2年生を対象に実施している「全国体力・運動能力等調査」の結果によると、近年、子どもの体力は緩やかに向上しつつあるものの、体力水準が高かった昭和60年頃と比べると低い水準にあります。

令和元年度における調査結果を全国平均と本市の平均で比較すると、小学5年生の女子は全国平均を上回っている種目の方が多い一方で、中学2年生の女子は、全国平均を下回っている種目の方が多くなっています。また、本市における平成26年度と令和元年度の結果を比較すると、小学5年生で、令和元年度の記録が下回っている種目が多くなっています。

○体力・運動能力等調査の結果

①「R元年度全国平均」欄の「*印」

→「R元年度一関市平均」の記録を基準として、それを上回っている種目

②「H26年度一関市平均」欄の「◆印」

→「R元年度一関市平均」の記録を基準として、それを上回っている種目

※中学2年生の「8 ハンドボール投げ」の記録については、H26年度では「ソフトボール投げ」の記録となっているため、比較対象から外している。

小学5年生		男子			女子		
種目		R元年度 全国平均	R元年度 一関市平均	H26年度 一関市平均	R元年度 全国平均	R元年度 一関市平均	H26年度 一関市平均
1	握力 (kg)	16.37	17.40	◆17.56	16.09	17.24	◆17.36
2	上体起こし (回)	*19.80	19.20	◆19.27	*18.95	18.36	◆19.05
3	長座体前屈 (cm)	*33.24	32.62	32.46	*37.62	35.78	◆36.40
4	反復横とび (点)	41.74	42.81	◆43.28	40.14	42.44	42.12
5	20mシャトル (回)	*50.32	49.16	◆51.22	40.80	43.02	◆43.20
6	50m走 (秒)	*9.42	9.59	◆9.52	9.63	9.62	9.62
7	立ち幅とび (cm)	151.47	153.43	150.79	145.70	149.69	148.28
8	ソフトボール投げ (m)	21.60	23.11	◆24.43	13.59	15.83	◆16.61

中学2年生		男子			女子		
種目		R元年度 全国平均	R元年度 一関市平均	H26年度 一関市平均	R元年度 全国平均	R元年度 一関市平均	H26年度 一関市平均
1	握力 (kg)	28.64	30.98	◆31.94	23.74	25.40	◆25.55
2	上体起こし (回)	*26.85	25.56	◆27.65	*23.58	22.27	◆22.80
3	長座体前屈 (cm)	43.43	44.18	43.64	*46.29	45.38	44.71
4	反復横とび (点)	*51.87	51.14	◆51.96	*47.25	47.08	45.91
5	20mシャトル (回)	*83.13	80.24	◆85.84	*57.98	56.10	◆59.53
6	50m走 (秒)	8.02	7.93	7.97	8.81	8.78	9.00
7	立ち幅とび (cm)	195.02	197.23	197.01	*169.71	167.67	165.89
8	ハンドボール投げ (m)	*20.35	20.22	—	12.87	13.26	—

資料：スポーツ庁 全国体力・運動能力等調査結果、一関市教育委員会

子どものスポーツ活動の場は、学校体育、学校教育の一環としての運動部活動、スポーツ少年団活動、民間のクラブチームなどに所属して行う活動、楽しむことを主として仲間同士で行う活動などがあります。

このうちスポーツ少年団は、地域を基盤とする子どもの社会活動として、スポーツを通じて体と心の健全育成を図っています。本市では、令和2年度現在、126の団体で2,117名の団員が様々な競技に取り組んでいますが、団員数は年々減少傾向にあり、合同チームを編成して競技に取り組んでいる団体も出てきています。

スポーツ少年団	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
団体数	135団体	132団体	134団体	126団体
団員数	2,680人	2,530人	2,420人	2,117人

一関市教育委員会の調べでは、令和元年度における肥満傾向児童の割合は小学5年生、中学生2年生とも全国平均より高く、小学5年生の方がより高い結果が出ています。

近年、スマートフォンやゲーム機等の普及などにより子どもの生活時間の使い方が大きく変化し、スポーツや外遊びの機会が減少傾向にあります。

また、本市では、少子化などの影響を受け、身近な地域でやりたいスポーツ活動が行えなくなってきており、さらに、小中学校の統合に伴い、これまでの徒歩や自転車での通学がスクールバス等の利用に変わったことなども、体を動かす機会の減少につながっていると考えられます。

■課題■

- ・子どもの体力・運動能力が以前より低い傾向にあります。成長や発達に必要な体力を高めるため、スポーツに関心を持たせ、親しむ環境づくりを進めることが求められています。
- ・子どもの時期にスポーツの楽しさを知り、体を動かす習慣を身につけることは、その後の継続的なスポーツ活動につながることを期待されることから、幼児期から様々なスポーツを体験する機会の創出が求められています。
- ・人口減少や少子化などの影響で、やりたいスポーツに取り組むことが困難になってきていることから、身近な地域で好きなスポーツを継続的に行える場の創出が求められています。
- ・市体育協会や種目別競技協会などと連携し、スポーツ少年団の課題やニーズを把握しながら活動に対する支援を行うことが必要です。

1-5 高齢者や障がい者のスポーツ活動

(1) 高齢者のスポーツ活動

高齢者のスポーツ活動は、健康づくり、介護予防、地域交流、いきがいづくりなどに重要な役割を果たしており、体力や好みに合ったスポーツを継続的に行うことが大切です。

本市では、スポーツ推進委員が、地域で行われる介護予防教室などでニュースポーツや軽体操の普及実践活動を行い、高齢者の健康増進を図っているほか、市体育協会が市民センターや地域の集会所などで軽体操の実践を行っています。

また、市の健康づくり、高齢者福祉等の担当部署、市民センター、老人クラブ連合会等が、スポーツを通じた健康づくり事業や介護予防事業、世代間交流を促す事業を実施し、高齢者の健康増進などに取り組んでいます。

○事業の例

実施主体	主な実施事業
市のスポーツ振興の担当部署	スポーツ推進委員の派遣事業、シルバーニュースポーツ健康増進事業
市体育協会	健康増進・体力向上事業 など
市の健康づくり、高齢者福祉等の担当部署	介護予防事業（軽体操、軽運動、レクリエーションなど）、軽運動教室、ウォーキング交流会、軽体操普及推進事業 など
老人クラブ連合会	いきいきシニアスポーツ大会、グラウンド・ゴルフやゲートボールなどの各種競技大会、運動会などを各地域の事業として開催
市民センター	高齢者学級、世代間交流、軽運動や体操教室、各種スポーツ教室、各種スポーツ大会、老人大運動会、地区民運動会、スポーツ体験講座 など

(2) 障がい者のスポーツ活動

障がい者のスポーツ活動は、社会参加の促進、健康の維持・増進、いきがいづくり、仲間づくりなどにつながり、楽しみながら継続的にスポーツ活動を行える環境づくりが必要です。

本市では、平成30年に一関市障がい者スポーツ協会が発足しました。障がい者のスポーツ活動を推進する市町村レベルでの組織の発足は岩手県内では初めてであり、全国的にもあまり例がない、先駆的な取組となっています。

障がいのある人もない人も一緒にスポーツを楽しむ「ユニバーサルスポーツ体験会」や、隣接の宮城県気仙沼市の障がい者スポーツ協会と連携した交流事業を開催するなど、市体育協会などとの連携のもと、障がい者が気軽にスポーツ活動を行える環境づくりに取り組んでいます。

また、市の障がい者福祉の担当部署や市の障がい者交流施設（サン・アビリティーズ一関）では、障がい者の自立や社会参加、体力の増進や交流などを目的とした事業を実施し、障がい者のスポーツ活動を推進しています。

○事業の例

一関地方ふれあいスポーツ大会	障がい者等が、スポーツを通じて体力の維持、地域社会とのふれあいや相互理解を深めることを目的に実施。
障がい者ふれあい事業	障がい者が趣味・創作活動を通じて相互の交流やふれあいを図り、自立と社会参加を促進するために開催する講座において、健康体操教室やペタンク教室を開催。
障がい者社会参加支援事業	障がい者が活動を通じて相互の交流やふれあいを図り、自立と社会参加を促進するため、一関地方ふれあいスポーツ大会の支援のほか、岩手県障がい者スポーツ大会への選手派遣を実施。

■課題■

- 市のスポーツ振興、健康づくり、高齢者福祉等の担当部署、市体育協会、老人クラブ連合会、市民センター等が連携して、高齢者のスポーツ活動を推進することが必要です。
- 障がい者のスポーツ活動を広めていくためには、市のスポーツ振興や障がい者福祉の担当部署、市障がい者スポーツ協会、障がい者施設等が連携し、障がい者が主体的にスポーツを行える環境づくりを進めることが必要です。

(略)

2 競技スポーツについて

2-1 スポーツ選手や指導者の育成

本市では、これまで、選手の競技力向上とそれを支える指導者の育成などを支援するため、市体育協会などと連携し、全国大会等への出場に対する助成、選手の育成強化に対する支援、スポーツ実技講習会の開催、スポーツ少年団指導者の資格取得に対する支援などを行ってきました。

全国大会などでの活躍や経験は、選手のモチベーションを上げ、さらなる競技力向上につながるとともに、共に活動する仲間などへの刺激や目標となり、競技の普及や意欲の向上につながります。

また、本市にゆかりのある選手やチームが全国や世界を舞台に活躍することは、市民の喜びとなり地域に活力を生み出すほか、夢や憧れとなってスポーツへの関心や参加意欲につながっています。

○ 主な事業

全国体育大会等への出場に対する支援事業	東北規模以上の競技大会に出場する小中学生及び高校生に対する遠征費の助成
トップアスリート育成強化支援事業	本市を拠点に全国大会や国際大会に出場し活躍するトップアスリートの育成強化に対する支援
スポーツ実技講習会開催事業	著名な指導者等を招へいし、小中学生などを対象に行う実技指導等
スポーツ合宿誘致事業	市外の大学等のスポーツ部の合宿誘致 (合宿期間中に行う市内の児童生徒への実技指導等)
選手の育成支援事業	市体育協会と連携した、種目別競技協会が実施する競技力向上のための事業に対する支援
指導者育成支援事業	市体育協会と連携した、種目別競技協会等が実施する指導者育成事業に対する支援
スポーツ少年団指導者育成事業	市体育協会と連携した、スポーツ少年団登録に必要なスタートコーチ資格取得に対する助成

2-2 スポーツ大会の開催・支援

本市では、全国から多くのランナーが参加する「一関国際ハーフマラソン大会」、早稲田大学駅伝競走部の市内合宿を契機に始まった「花泉マラソン大会『瀬古利彦杯』」を毎年開催するとともに、強豪チームが参加する、東日本規模の「東日本高等学校選抜女子バレーボール大会」及び「JABA一関市長旗争奪クラブ野球大会」などの開催支援を通じて、市民のスポーツ参加の推進と競技力向上を図ってきました。

また、市内での宿泊を伴う東北規模以上の学会や会議、大会等の開催を支援しており、スポーツ大会は、毎年、3～4大会が開催されています。

さらに、平成24年度から8年連続で開催されている「日本女子ソフトボール1部リーグ」などの国内トップレベルの大会の誘致を支援し、市民の「みるスポーツ」の機会創出に努めてきました。

市内でのスポーツ大会の開催は、選手やスタッフとしての関わり、大会観戦などを通じて競技力やスポーツへの意欲の向上が図られるほか、スポーツ施設の有効活用、交流人口の増加による地域

の活性化にもつながっています。

また、スポーツ観戦は、応援を通じた一体感、緊張感、勝利の喜びや感動など、観ている人に心に響く様々な感情をもたらし、スポーツへの関心を高めるほか、子どもたちにとっては夢や憧れにもつながります。

大会名	参加規模等
一関国際ハーフマラソン大会（毎年開催）	R1年度参加者数：3,141人
花泉マラソン大会「瀬古利彦杯」（毎年開催）	R1年度参加者数：773人
東日本高等学校選抜女子バレーボール大会（毎年開催）	3日間開催、16チーム参加
JABA一関市長旗争奪クラブ野球大会（毎年開催）	2日間開催、16チーム参加
日本女子ソフトボール1部リーグ （R1年度現在で8年連続開催）	2～3日間で4～9試合開催 R1年度入場者数 2,888人
東日本ブロッククラブバレーボール選手権大会・東北クラブバレーボール選手権大会（H29年度開催）	3日間開催、40チーム参加

2-3 競技スポーツの現状と課題（懇談会より）

今後の競技スポーツの推進にあたり、市内のスポーツ関係団体における現状や課題を把握するため、令和2年度に懇談会を開催し、現在行っている事業や活動における現状、また、今後を見据えた課題等について多くの意見等が出されました。

○開催日・・・令和2年10月27日（火）、29日（木）

○対象・・・一関市体育協会、種目別競技協会、総合型地域スポーツクラブ、
小・中学校体育連盟、高等学校体育連盟、スポーツ指導者協議会

○懇談会の内容のまとめ

(1) 競技力の向上や指導者育成に向けて行っている活動

- ・著名な指導者の招へい、ワークショップ的な指導者育成講習会等の開催
- ・各種大会の開催を通じた役員の育成、運営力の強化、競技力の向上の推進
- ・競技の普及に向けた体験教室やスクールの開催
- ・障がい者を対象に市内を巡回して行うニュースポーツの体験会の実施
- ・幼稚園や保育園への有資格指導者の派遣による、幼少期からのスポーツ体験の推進
- ・市内等で開催される大会での審判等の運営協力

など

(2) 競技スポーツの現状

- ・人口減少や少子高齢化が進み、市全体として競技人口が減少している。
- ・少子化の影響などで部活動の競技種目が減少し、やりたいスポーツに取り組みなくなってきている。また、種目によっては、地域内だけではスポ少などの活動が難しくなっており、地域を超えた活動が進んできている。
- ・指導スタッフの確保が難しく、競技力強化を目的とした教室などの開催が困難になっている。
- ・指導者が不足しているほか、資質やコーチング技術の向上が必要となっている。
- ・競技人口が少ないため、指導者になる人がいない。

など

(3) 課題や意見として出されたもの

① 競技人口の減少について
<ul style="list-style-type: none"> ・少子化、若い世代の流出、進学や就職などのライフステージの変化などに伴い競技離れが進む中、特に若年層を中心とした競技人口をいかにして確保していくかが課題。 ・学校や学区単位の競技活動は、今後ますます困難になることが予想される。広域的にやりたいスポーツに取り組める場づくり、仕組みづくりが必要なのではないか（例えば、総合型地域スポーツクラブの設立やその支援など）。 ・幼少期から様々なスポーツを体験させ、スポーツに興味を持たせながら、やりたいスポーツに導くのがいいのではないか（学校や競技協会との連携が必要）。 ・高齢者や障がい者に対するスポーツの推進も必要である。 など
② 競技力の向上や指導者育成について
<ul style="list-style-type: none"> ・トップアスリートからの指導機会や、トップリーグなどの観戦を通じて高いレベルの技術に触れる機会は、子どもたちの良い刺激になり、意欲や競技力の向上につながる。 ・大規模大会の開催を通じて、役員の育成や運営力の強化及び選手の競技力の強化を図ることができる。 ・競技活動を支える指導者の確保や育成、資質向上を図るための支援が必要である。 など
③ 施設の利用について
<ul style="list-style-type: none"> ・冬場でもスポーツ活動を安心して行えるよう、暖房設備や器具を充実させてほしい。 など

■ 課題 ■

<競技人口の減少について>

- ・種目別競技協会やスポーツ少年団などの活動支援を通じて市民の競技スポーツの活動を支え、また、減少傾向にある競技人口の拡大に取り組むことが必要です。
- ・総合型地域スポーツクラブの設立や支援を行い、地域の枠にとらわれず、市民が継続したスポーツ活動を行うための環境づくりが求められています。

<競技力の強化や指導者育成について>

- ・全国大会等への出場や選手の技術強化等に対する支援が求められています。
- ・指導者や審判員等、市民のスポーツ活動を支える人材の育成を図るため、講習会の開催や資格取得に対する支援などが求められています。
- ・スポーツ大会を開催するためには、スタッフの確保や財政的な負担が課題となっています。

<スポーツ観戦の機会の創出について>

- ・トップレベルの大会の観戦についての市民の関心は高く、また、市内の競技者にとって良い刺激となり、競技力の向上が期待されることから、「みるスポーツ」の機会創出が求められています。

3 スポーツ施設について

3-1 市のスポーツ施設の現状

本市には、令和2年度現在で 66 のスポーツ施設があります。そのほとんどは合併前の旧市町村で整備した施設であり、市民の日常のスポーツ活動の場として幅広い年齢層で利用されているほか、市民レベルの大会から全国大会まで、様々な規模の競技大会にも活用されています。

また、本市では指定管理者制度を導入しており、スポーツ施設では 57 施設を市体育協会、2 施設（黄金山キャンプ場、飛ヶ森キャンプ場）を地域協働体、1 施設（藤沢スポーツランド）を藤沢町モータースポーツ協会に管理委託して、指定管理者が持つ専門性や弾力性、柔軟性という特性を活かし、市民ニーズに対応した施設の効率的、効果的な管理運営に努めています。

地域	スポーツ施設 (令和2年4月1日現在)
一関 【14 施設】	一関市総合体育館、東口体育館、一関運動公園野球場／テニスコート／陸上競技場／多目的広場／ソフトボール場、一関武道館、東台野球場、萩荘サッカー場、一関水泳プール、一関サッカー・ラグビー場、尾花が森キャンプ場、一関市産業教養文化体育施設
花泉 【9施設】	花泉体育館、花泉第二体育館、花泉弓道場、花泉テニスコート、花泉水泳プール、花泉運動公園野球場／テニスコート／多目的競技場／キャンプ場
大東 【9 施設】	大東体育館、大東野球場、大東グラウンド、伊勢館公園野球場（直営）、伊勢館公園テニスコート（直営）、春日公園テニスコート（直営）、春日グラウンド（直営）、大東勤労者体育センター（直営）、大東バレーボール記念館（直営）
千厩 【11 施設】	千厩体育館、千厩武道館、千厩野球場、千厩多目的グラウンドテニスコート／ソフトボール場／サッカー場／運動広場、清田テニスコート、千厩アイスアリーナ、黄金山キャンプ場、飛ヶ森キャンプ場
東山 【8 施設】	東山総合体育館、東山球場、東山テニスコート、東山多目的グラウンド、東山B&G海洋センター、唐梅館パークゴルフ場、唐梅館総合公園クラブハウスえぼっく、東山農村勤労福祉センター
室根 【3 施設】	室根体育館、室根テニスコート、室根野球場
川崎 【3 施設】	川崎体育センター、川崎テニスコート、川崎運動広場
藤沢 【9 施設】	藤沢B&G海洋センター、ニコニコドーム、藤沢ニコニコヘルス、すぱーく藤沢、藤沢体育館、藤沢テニスコート、藤沢運動広場、藤沢スポーツプラザ、藤沢スポーツランド

【スポーツ施設の利用実績】

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
利用件数	102,349 件	101,854 件	97,194 件
利用人数	893,458 人	889,892 人	754,406 人

資料：一関市スポーツ振興課

アンケート結果では、市民が主に利用するスポーツ施設は、体育館が最も多い26.6%となっています。しかしながら、それを上回る55.6%の人が、市のスポーツ施設を「利用していない」と回答しています。

現在、市のスポーツ施設はインターネットを活用した利用予約システムを導入し、利用者の利便性と施設の利用促進を図っていますが、アンケート結果では64%の人が予約システムを知らなかったと回答しており、システムの利用者からも利便性の向上を求める声が寄せられています。

市民のスポーツ活動の推進にあたっては、その活動の場としてのスポーツ施設の利用促進も併せて取り組むことが必要であり、市民のニーズを把握しながら施設内容の充実を図るとともに、施設の予約や利用についての利便性を向上させ、利用促進を図ることが重要です。

また、施設の維持管理については、スポーツ施設を含め市全体として公共施設の老朽化が進んでおり、各施設の利用状況や収支状況、また、人口減少の進行や財政計画などの観点から、全市的な公共施設の見直しの取組が進められています。この方向性を踏まえながら、利用者が安全で安心してスポーツ活動を楽しめるよう、適切な施設管理を行うことが必要です。

3-2 学校体育施設の活用

スポーツ施設以外にも、市民のスポーツ・レクリエーション活動及び子供の遊び場の確保のため、市立小学校及び中学校の体育施設（校庭及び体育館）を夜間及び休日に開放しており、年間を通して多くの市民に利用されています。

○利用実績

		小学校（28校）	中学校（16校）	計
平成30年度	件数	8,912	6,612	15,524
	人数	172,506	102,449	274,955
	時間	23,795	14,130	37,925
令和元年度	件数	9,633	7,299	16,932
	人数	181,651	108,857	290,508
	時間	26,020	14,777	40,797

資料：一関市教育委員会

3-3 市のスポーツ施設への要望

市のスポーツ施設の満足度に対するアンケート結果では、37.3%の人が「施設は十分に備わっており、満足している」または「施設は比較的備わっており、おおむね満足している」と回答しています。

一方で、13.7%の人が「十分な施設が備わっておらず、満足していない」と回答しており、年間を通じて継続的かつ快適にスポーツ活動が行えるよう、トレーニング施設や屋内プールの整備、屋内施設への冷暖房設備の完備などが求められています。

充実してほしい スポーツ施設	その内容
トレーニング施設	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の数が少ない ・身近な地域にないため行けない ・設備や器具を充実させてほしい ・健康管理機器を設置してほしい ・機器の使い方などを指導してくれる人がいてほしい
プール (屋内プール)	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内プールがほしい ・身近な地域にプールがほしい ・仕事の合間などいろいろな時間で利用したい ・健康維持のため、屋内プールで水中ウォーキングやスイミングを行いたい(高齢者でも利用しやすい)
体育館	<ul style="list-style-type: none"> ・施設が古いので建て替えてほしい ・もっと気軽に利用したい ・無料貸し出しをしてほしい ・冷暖房を完備してほしい ・トランポリンができる施設があるといい ・身近な施設でバウンドテニスができるといい ・大会を行っている体育館の駐車スペースが少ない
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・野球場を収容人数の多い施設にしてほしい ・屋外施設は施設管理者の目が届き安心して使えるようにしてほしい <p><その他充実してほしい施設></p> <ul style="list-style-type: none"> ・複合のスポーツ施設 ・スケートボードやインラインスケートなどの常設パーク ・家族で何でもできるスポーツ公園 ・自転車で自由に走れる場所 ・ウォーキングやランニングのコースがある公園や広場 ・身近な地域に屋根付きのゲートボールコート ・エアロビクスなどができるスタジオ

資料：令和2年度「一関市民のスポーツ活動に関するアンケート」

■課題■

- ・スポーツ施設の利用は、団体だけでなく、個人、家族、仲間同士などの少人数でも気軽に利用できる環境を整えることが必要です。
- ・施設や備品、用具等の有効活用を図るため、各施設が備えている競技コート数、備品、ニュースポーツの用具など、スポーツ施設の設備の情報を市民に提供することが必要です。
- ・スポーツ施設の老朽化などが進む中、既存施設の保有や維持管理については市民ニーズを把握しながら適切に行っていくとともに、市全体としての公共施設の管理の方向性に合わせて進めていく必要があります。
- ・学校体育施設は身近にスポーツ活動が行える場所であることから、市民のスポーツ活動の推進のため、今後も教育委員会と連携しながら施設の活用を進めることが必要です。

(略)

4 スポーツを通じた交流について

スポーツ大会への参加や観戦を目的として開催地を訪れた際に、地域資源とスポーツを掛け合わせて観光を楽しむ「スポーツツーリズム」の取組が全国各地で進められてきており、交流人口の増加につながっています。

これまで、「一関国際ハーフマラソン大会」の開催、「日本女子ソフトボールリーグ」の大会誘致などを通じて、全国から多くの参加者や観戦者が本市を訪れています。

また、県及び県内の自治体等で構成する「いわてスポーツコミッション」と連携したスポーツ合宿の誘致に取り組み、さらに、地域と学校の交流促進により合宿の数は年々増加傾向にあります。

今後は、これらの取組と併せて、市、観光協会、商工会議所、競技協会などが密に連携し、情報共有を図る機会を持ちながら、本市の魅力ある地域資源を活かしたスポーツツーリズムを推進することが重要です。

○一関市観光協会及び一関商工会議所から出された意見等

- ・市内で行われるスポーツ大会、スポーツイベント、スポーツ合宿についての情報や、大会開催及びスポーツ合宿に対する市の補助金制度などについて、市、観光協会、商工会議所等が情報共有する場があるといいと思う。
- ・例えば、マラソン大会でランナーが重視するのは、沿道の応援などの「気持ち」の部分である。地元の人が大会にどの程度関われるかによって、来る人の印象が変わるのではないか。
- ・合宿は滞在期間が長いので経済効果が高く、一度合宿に来てもらうと先生のネットワークで広がることも多い。また、パンフレットによるスポーツ施設や宿泊施設のPRと併せて、これまでの合宿の実績も周知することでさらに効果が上がると考える。

■課題■

- ・スポーツツーリズムにより交流人口を増やすことは地域の活性化につながることから、地域の特性を活かした取組を進める必要があります。
- ・スポーツ及び観光に関わる機関・団体等と連携を図り、情報共有と協議の場を持ちながら、効果的な取組を進めることが必要です。

(略)

5 市のスポーツの推進に対するニーズ

5-1 市民が期待するスポーツの推進

アンケート結果によると、地域のスポーツ活動に期待する効果は、「健康づくりの推進」が54.3%と最も多く、次いで「地域コミュニティの活性化（33.1%）」、「余暇時間の有効活用（28.2%）」の順となっています。

また、今後の市のスポーツ推進に必要なと思う施策は、下表にあるとおり、「市民が気軽に参加できるスポーツ教室やスポーツイベントの開催（47.6%）」が最も多く、次いで「子ども、社会人、高齢者など、各世代に合ったスポーツ活動の推進（38.2%）」、「公共スポーツ施設の整備・充実（23.7%）」の順となっています。

このほか、「プロスポーツや国際大会の観戦など「みるスポーツ」機会の創出（22.0%）」、「トップアスリートとの交流や実技指導を受ける機会（20.4%）」といった、トップレベルのスポーツ技術に間近に触れることへの関心も高くなっています。

▶あなたは、今後一関市のスポーツを推進するために何が必要だと思いますか（複数回答可）

選択肢	回答数	割合
市民が気軽に参加できるスポーツ教室やスポーツイベントの開催	177	47.6%
子ども、社会人、高齢者など、各世代に合ったスポーツ活動の推進	142	38.2%
公共スポーツ施設の整備・充実	88	23.7%
誰もが気軽に実践できるニュースポーツの普及推進	83	22.3%
プロスポーツや国際大会の観戦など「みるスポーツ」機会の創出	82	22.0%
トップアスリートとの交流や実技指導を受ける機会	76	20.4%
スポーツ団体や地域でのスポーツ活動への支援	61	16.4%
スポーツ活動に関する情報提供の充実	55	14.8%
スポーツ大会誘致による交流拡大や競技スポーツの推進	44	11.8%
スポーツ指導者や審判員の育成	31	8.3%
健常者と障がい者が一緒に行うスポーツ活動の推進	28	7.5%
ボランティアによるスポーツの指導やスポーツイベントの運営協力の推進	28	7.5%
総合型地域スポーツクラブの推進	21	5.6%
わからない	42	11.3%
その他	6	1.6%
無回答	3	0.8%

資料：令和2年度「一関市民のスポーツ活動に関するアンケート」

5-2 ワークショップでの意見等

今後の市のスポーツの推進にあたり、広く意見等を聴取するためワークショップを開催し、多くの提案や意見等をいただきました。

○開催日・・・11月2日(月)、4日(水)、10日(火)、13日(金)

○対象・・・地区体育協会、スポーツ少年団関係者、小・中学校PTA、地域協働体

○参加者によりまとめられた意見

テーマ1 生涯スポーツの推進
<ul style="list-style-type: none"> ・小さい頃から様々なスポーツを経験させて、競技の選択の幅を持たせるのがいいのではないかな。 ・スポーツ推進委員の活動の場を広げ、生涯スポーツの意味や運動の大切さなどを伝える活動などしてほしい。 ・定年後、地域との関わりが体を動かすきっかけになるかもしれない。そのために、地域行事への参加の声かけをするリーダーが必要ではないかな。 ・地域で、幅広い年代と一緒にスポーツに取り組めるような事業を実施したらいいのではないかな(子どもの参加も促せるようなもの)。 ・子どもがやりたいスポーツができるような公園利用を進めたらいいのではないかな。 ・年齢に応じて様々なスポーツ体験を行える場を提供してほしい。3か月程度体験し、その受講者を中心としたサークルの立ち上げへのサポートがあるといいと思う。 ・同レベルの人同士で楽しくスポーツが行える場づくりが必要ではないかな。 ・地域行事のように、ある程度の人数が集まらないと成り立たないものは、若干の強制力を持って参加者や応援団を集めることも時には必要ではないかな。 ・子どもの時からスポーツに触れないと、その後のスポーツ活動につながらないのではないかな。 ・スポーツ推進委員や競技団体などが学校で出前教室を行い、大人も子どもも気軽にスポーツ体験をして興味につなげるような取組をしたらいいのではないかな。
テーマ2 競技スポーツの推進
<ul style="list-style-type: none"> ・指導者が学校を巡回する仕組みをつくり、小中学生にスポーツ体験の場を提供する取組をしたらいいのではないかな。 ・審判員の支援体制の充実を図ることが必要ではないかな(大会が多い、経費負担の軽減)。 ・部活動とクラブチーム等での活動を選択制とし、どちらの活動も同等とする仕組みづくりが必要ではないかな。また、クラブチームの立ち上げや運営への支援をしてほしい。 ・スポーツ選手との交流で、子どもが夢や目標を持つきっかけづくりをしてほしい。 ・スポーツが楽しいと思える指導ができる指導者の養成が必要ではないかな。 ・登録料など多くの経費がかかる大人のスポーツ競技者にも支援が必要ではないかな。 ・小中学生や高校生の大会等が地域の行事と重なると子どもたちが行事に出て来ないので、大会等の開催時期を調整してほしい。 ・指導者や審判の資格取得に対する支援が必要ではないかな(講習会の誘致や経費補助)。 ・地元クラブチームをつくり、部活動との選択制にするのがいいのではないかな。中体連等の大会にもクラブチームが出場できるような体制づくりも併せて必要である。

テーマ3 スポーツ施設の利用促進

- 公共施設予約システムの改善や仕組みづくりが必要ではないか。
市内の人を優先させる、高齢者も含めた利便性・簡易性の向上、予約の平等性の確保、過度な競争率の解消、施設周辺住民の受付時間を早める など
- 年数回程度、スポーツ施設の無料開放をして、競技の指導を受けられるなどの体制づくりもしてほしい。
- 各施設の競技コート数や設備、利用できる備品などについての情報を一覧化して発信してほしい。
- 施設整備の計画を立てて、核となる施設を計画的に整備したらいいのではないか。
- e スポーツなど、これからの時代に合わせた施設整備が必要ではないか。

(略)

6 現行計画の主な成果のまとめ

(1) 生涯スポーツの振興

① スポーツ活動推進体制の整備充実

- ・市体育協会の運営及び活動を支援し、連携を図りながら各種スポーツ施策を推進するとともに、種目別競技協会、地区体育協会、スポーツ少年団の育成及び活動支援を行った。
- ・スポーツ少年団活動へのアンケート調査や意見交換会での意見等を踏まえ、平成30年度に指導者資格の取得に対する助成制度を創設した。(30年度は23人、令和元年度は27人が資格を取得。)

② スポーツ・レクリエーション指導者の養成・確保

- ・スポーツ推進委員を県協議会などが開催する研修会等へ派遣したほか、市協議会による自主研修会を開催し、地域スポーツにおける指導者としての資質向上を図った。
- ・市体育協会を通じて指導者研修会等を開催し、競技スポーツの指導者育成に努めた。

③ スポーツ・レクリエーションの実践活動の促進

- ・市体育協会等に委託し、各種スポーツ教室やスポーツ・レクリエーション事業を実施し、市民のスポーツ活動を推進した。
- ・スポーツ推進委員をPTA行事や地域事業に派遣して、ニュースポーツの普及実践活動を行った。また、市民体力測定会を実施し、体力の把握と継続的な運動の動機づけを図った。
- ・市及び市体育協会のホームページや市の広報誌を活用し、広く事業等の周知を図った。平成29年度には市ホームページのスポーツ関連ページの見直しを行い、情報量の拡大と内容の充実を図った。

④ 子どもや高齢者のスポーツ活動の推進

- ・学校体育、部活動、スポーツ少年団活動などを通じて子どものスポーツ活動の推進と体力の向上を図った。また、小学5年生を対象にトップアスリートなどが授業を行う「夢の教室」を開催し、夢や目標を持つことの大切さなどについて考える機会を創出した。
- ・スポーツ推進委員が介護予防教室などでニュースポーツ等の普及実践活動を行う事業を展開した。また、市の健康づくりや高齢者福祉等の担当部署、市民センター、市体育協会、老人クラブ連合会などが様々な事業を実施し、高齢者のスポーツ活動を推進した。

(2) 競技スポーツの推進

① 競技力向上

- ・全国大会等に出場する小中高生や、県民体育大会に出場する選手等の遠征費を助成した。
- ・平成28年度に、それまで開催していた「スポーツ講演会」を児童生徒を対象とした「スポーツ実技講習会」の開催に見直し、現役スポーツ選手などによる実技指導を通じて競技力の向上を図った。
- ・市外の高校や大学が本市で行うスポーツ合宿の誘致を推進し、合宿時に市内の中学生など

に対して行われる実技指導等を通じて、競技力の向上を図った。(平成29年度は8団体、30年度は延べ14団体、令和元年度は延べ13団体が合宿を実施。)

- 令和2年度に、地域でスポーツ合宿の受け入れに取り組み、環境整備などの支援を行う団体等に対する助成制度を創設し、スポーツ合宿のさらなる誘致と交流人口の拡大に取り組んだ。

② 選手の育成強化、指導者育成

- 市体育協会が実施するスポーツ講座等の開催事業や、種目別競技協会が実施する選手強化や指導者育成のための各種事業に対する支援を行った。

- 平成29年度に「トップアスリート育成強化支援事業」を創設し、本市を拠点に全国大会や国際大会での活躍が見込まれる中学生以上の選手の技術強化等の活動を支援した。(29年度から令和2年度までの4年間で、延べ14人の選手の活動を支援した。)

③ 各種大会の開催・支援

- 毎年9月に開催している「一関国際ハーフマラソン大会」には、全国各地から多くのランナーの参加があり、参加者数は年々増加している。

- 令和元年度に30回目の開催となった「花泉マラソン『瀬古利彦杯』」は、オリンピック元日本代表の瀬古利彦氏の名を冠した国内唯一の大会となっている。

- 平成24年度から令和元年度まで「日本女子ソフトボールリーグ1部」が本市で開催され、市民が、日本代表選手などが出場するトップレベルの大会を観戦する貴重な機会となった。

- 「東日本高等学校選抜女子バレーボール大会」、「JABA一関市長旗争奪クラブ野球大会」の開催を支援し、地元チームの競技力向上やスポーツを通じた交流人口の拡大を図った。

- 市内での宿泊を伴う東北規模以上のスポーツ大会の開催を支援し、交流人口の拡大やスポーツ施設の利用促進を図った。

④ 「希望郷いわて国体」、「希望郷いわて大会」に向けた取組

- いわて国体及びいわて大会の開催に向け、市民総参加のクリーンアップ活動や花いっぱい運動などを実施し、全国から訪れる選手、役員、観戦者の皆様に「おもてなし」の心と復興支援への感謝の気持ちで迎えるとともに、円滑な大会運営を行った。

(3) スポーツ施設の利用促進

- 合併前の旧市町村で整備した多くのスポーツ施設を保有し、老朽化も進む中、市全体の公共施設管理の方向性を踏まえながら安心・安全な施設の管理や運営に努めた。

- 地元企業が整備した体育館を有効活用して市民の新たなスポーツ活動の場として整備し、令和2年度に供用を開始した。

- インターネットを活用した公共施設予約システムの運用によりスポーツ施設の利用予約の利便性を図るとともに、利用促進を図った。

- 市民の身近にある学校体育施設を市民に開放し、市民のスポーツ活動の促進に努めた。

第3章 基本理念と基本目標

- 1 基本理念
- 2 基本目標

第3章 基本理念と基本目標

1 基本理念

スポーツは、体を動かすという人間の身体的・精神的な欲求に応えるものであり、スポーツを日常の生活に位置づけ、生涯を通じて親しむことは、人生をより楽しく、健康で、活力に満ちたものとするために極めて大きな意義を有しています。

そのため、市民誰もがスポーツを身近に感じて興味や関心を持ち、それぞれの年齢や体力、目的、ライフスタイルなどに応じて気軽にスポーツに取り組むことができる環境を整えることが重要であり、また、一人ひとりが心身ともに健康であることは、元気で活力あるまちづくりにもつながります。

そこで、本市のスポーツ推進を図るための基本理念を

誰もがスポーツを楽しみ 健康でいきいきとした生活の実現

とし、市民一人ひとりがスポーツを日常の生活に取り入れ、地域と関わりを持ちながらいきいきとした毎日を送る、明るく活力に満ちたまちづくりを目指します。

2 基本目標

基本理念を実現するため、次の5つを基本目標とし、これに基づいた施策を展開します。

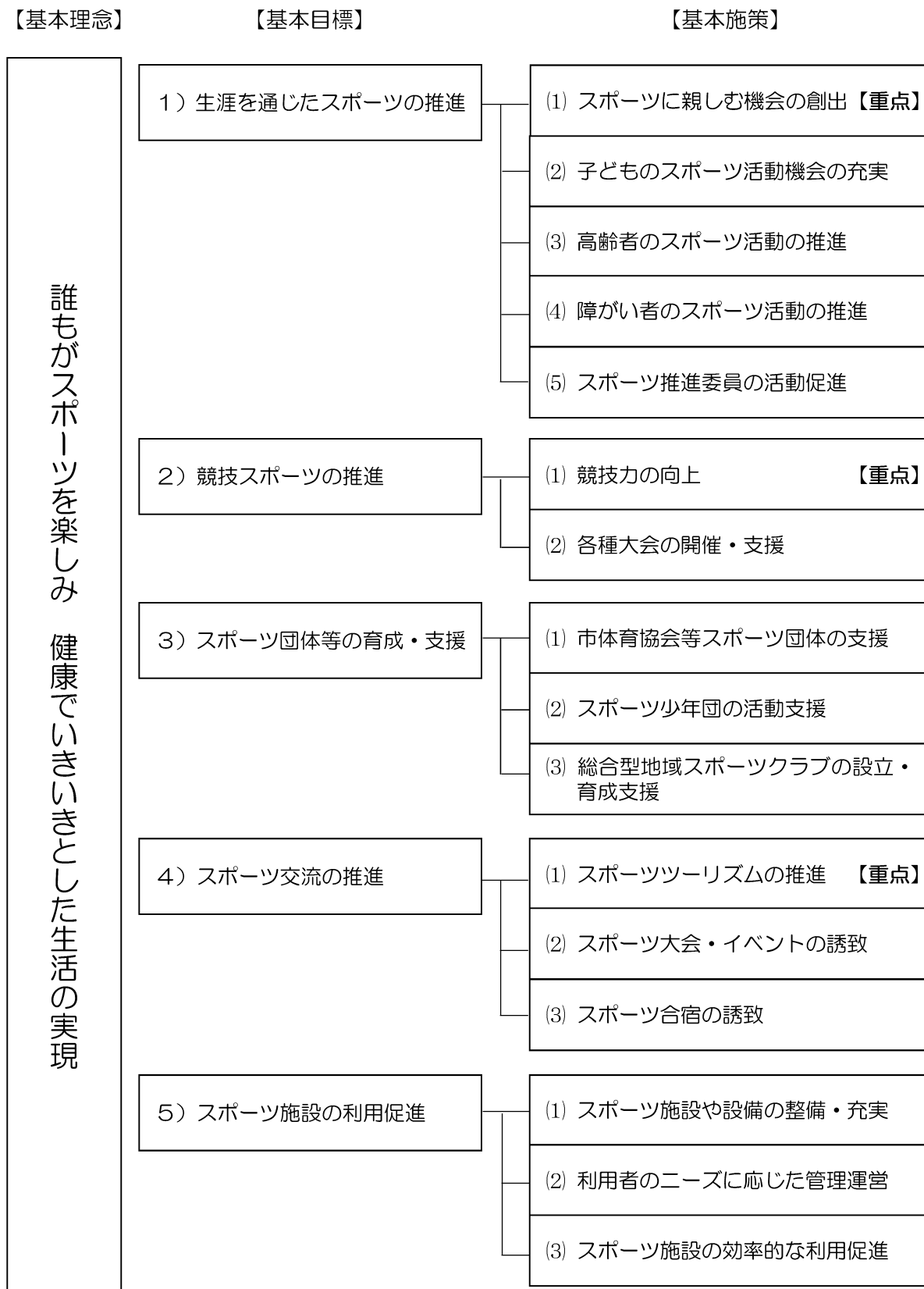
- 【基本目標1】 生涯を通じたスポーツの推進
- 【基本目標2】 競技スポーツの推進
- 【基本目標3】 スポーツ団体等の育成・支援
- 【基本目標4】 スポーツ交流の推進
- 【基本目標5】 スポーツ施設の利用促進

第4章 目標達成に向けたプロジェクト

- 1 施策の体系
- 2 重点プロジェクト
- 3 SDGsを踏まえた取組
- 4 スポーツ推進施策の展開

第4章 目標達成に向けたプロジェクト

1 施策の体系



2 重点プロジェクト

本計画の基本理念や基本目標の達成に向けて、特に重点的に取り組む3つの基本施策を「重点プロジェクト」として掲げます。

重点プロジェクト1 スポーツに親しむ機会の創出

市民のスポーツ活動を推進するため、市民ニーズの把握を行いながら、子どもから大人まで気軽にスポーツに親しめる機会をつくります。

重点プロジェクト2 競技力の向上

競技スポーツの推進を図るため、全国大会などで活躍する競技者の育成を支援します。また、選手の競技活動を支え、競技力向上に重要な役割を果たす指導者の育成を支援します。

重点プロジェクト3 スポーツツーリズムの推進

地域資源を有効活用したスポーツツーリズムの推進に取り組み、スポーツの振興とスポーツを通じた交流人口の拡大、観光の振興、地域経済の活性化を図ります。

3 SDGsを踏まえた取組

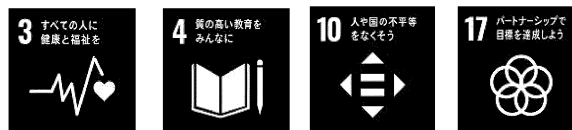
SDGs（Sustainable Development Goals）は「持続可能な開発目標」の略称で、経済・社会・環境の3つの側面のバランスが取れた社会を目指す世界共通の目標です。2030年までに達成する17のゴール（目標）で構成されています。

本市においても、SDGsの理念を踏まえ各種施策に取り組んでおり、本計画の推進にあたってはSDGsの視点を意識して施策を展開します。



4 スポーツ推進施策の展開

1) 生涯を通じたスポーツの推進



生涯の各時期において、興味・関心、技術、目的、体力等に応じてスポーツに取り組むことは、楽しさや喜びが得られるとともに、心身の健康増進やいきがいつくりにつながります。

市民の誰もが身近な地域で日常生活の中にスポーツを取り入れながら、生涯を通じてスポーツに親しむことができるよう、多彩なスポーツ活動に参加する機会を創出します。

【施策】

(1) スポーツに親しむ機会の創出

市民の健康志向の高まりや高齢化社会の進展などに伴い、体力向上や健康増進を目的としたスポーツ活動などに対するニーズは、今後ますます増加するものと予想されます。

アンケートにより市民のスポーツ活動の現状やニーズの把握を行いながら、スポーツ関係団体、市民センター、地域協働体等と連携し、ライフスタイルや体力、好みなどに応じた参加しやすいスポーツ教室やスポーツイベントなどを実施し、スポーツに親しむ機会の創出及びスポーツを通じた地域づくりを促進します。

また、市の広報誌、ホームページ、フェイスブック等の様々な媒体を活用し、多くの市民にスポーツに関する様々な情報を提供することに努めます。

さらに、市民の「みるスポーツ」を推進するため、プロスポーツ等の大会誘致に対する支援などを通じて、市民がレベルの高い試合や大会を観戦する機会の創出に取り組みます。

	主な施策	施策の概要
1	スポーツ・レクリエーション事業の実施	・市民体育大会など、幅広い年齢層で参加できるスポーツ大会やスポーツ・レクリエーション事業を実施する
2	スポーツ推進委員派遣事業の実施	・PTA、地域事業、老人クラブ等が行うスポーツ関連事業に、スポーツ推進委員を派遣する
3	ニュースポーツの普及促進	・スポーツ推進委員の派遣事業などを通じて、誰もが手軽に楽しめる各種ニュースポーツの普及促進に努める
4	スポーツ教室の開催	・市体育協会に委託し、市民ニーズに対応した各種スポーツ教室を開催する
5	子どものスポーツ活動機会の充実	・種目別競技協会や総合型地域スポーツクラブ等と連携を図りながら、幼児期からスポーツに親しめる場と機会を提供する
6	市民センター事業との連携	・市民センターが実施する事業と連携し、スポーツ・レクリエーション活動の機会を提供する
7	スポーツ関連情報の提供	・市広報誌、市及び市体育協会のホームページなどを活用し、スポーツに関する様々な情報を提供する
8	市民アンケートの実施	・スポーツ活動に係る市民アンケートを実施し、現状や課題、ニーズを把握する
9	スポーツ施設の開放	・スポーツ施設の開放日の設定などにより、スポーツを始める機会の創出と、施設の周知及び利用促進を図る

10	「みるスポーツ」の機会の創出	・種目別競技協会等が行うプロスポーツチーム等の大会誘致に対する支援などを通じて、市民の「みるスポーツ」の機会の創出に努める
----	----------------	---

(2) 子どものスポーツ活動機会の充実

幼児期からスポーツに親しむことは、心身のバランスの取れた発育・発達に不可欠であり、成長期の基礎的体力を高めるうえでも重要です。また、幼児期に体を動かすことの楽しさを知ることは、その後の継続的なスポーツ活動につながることを期待されます。

種目別競技協会や総合型地域スポーツクラブ等と連携を図るとともに、幼稚園や学校等との連携体制の創出に努め、幼児期から積極的に体を動かすための環境の整備を促進するとともに、スポーツに親しむ場と機会の創出に取り組みます。

	主な施策	施策の概要
1	子どものスポーツ活動機会の充実【再掲】	・種目別競技協会や総合型地域スポーツクラブ等と連携を図りながら、幼児期からスポーツに親しめる場と機会を提供する
2	トップアスリートに触れる機会の創出	・小学5年生を対象に、トップアスリートなどが授業を行う「夢の教室」を開催する
3	スポーツ少年団の活動支援	・一関市体育協会や種目別競技協会と連携し、スポーツ少年団の活動を支援する
4	市内学校、関係機関等との連携	・市内の学校、スポーツ少年団、保育園、幼稚園、民間のスポーツ団体等と、子どものスポーツ活動の推進や事業の展開について話し合う場を設け、連携体制の強化に努める

(3) 高齢者のスポーツ活動の推進

高齢者のスポーツ活動は、健康の保持・増進、いきがづくり、仲間づくり、体力向上などに大きな役割を果たしています。

市のスポーツ振興、健康づくり、高齢者福祉等の担当部署、スポーツ関係団体、市民センター、老人クラブ等が連携し、高齢者が参加しやすいスポーツ教室等の開催に取り組みます。

	主な施策	施策の概要
1	スポーツ教室の開催【再掲】	・市体育協会に委託し、市民ニーズに対応した各種スポーツ教室を開催する
2	スポーツ推進委員派遣事業の実施【再掲】	・PTA、地域事業、老人クラブが行うスポーツ関連事業にスポーツ推進委員を派遣する
3	健康体操や軽運動等の取組の推進	・高齢者が日常的に体を動かす習慣を身につける事業を展開する

(4) 障がい者のスポーツ活動の推進

障がい者が日常生活の中でスポーツ・レクリエーション活動に参加することは、自立や社会参加を促進するための重要な取り組みとなっています。

市のスポーツ振興、障がい福祉等の担当部署、障がい者スポーツ協会、福祉団体等が連携し、障がい者のスポーツ活動が促進されるような環境づくりに取り組みます。

	主な施策	施策の概要
1	障がい者のスポーツ機 会の創出	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者と健常者がともに同じルールのもとで行う競技会を開催するなど、市体育協会や市障がい者スポーツ協会等と連携を図りながら、障がい者のスポーツ活動の機会を創出する 障がい者スポーツ大会を開催し、障がい者のスポーツ活動と交流機会を提供する

(5) スポーツ推進委員の活動促進

スポーツ推進委員は、身近な地域での市民のスポーツ活動を支え、促進する重要な役割を果たしています。県などが主催する研修会への参加や自主研修会などを通じて資質向上を図るとともに、スポーツ推進委員の活動を広く市民に周知し、身近な地域で行うスポーツ活動の促進に努めます。

	主な施策	施策の概要
1	スポーツ推進委員派遣 事業の実施【再掲】	・PTA、地域事業、老人クラブが行うスポーツ関連事業にスポーツ推進委員を派遣する
2	ニュースポーツの普及 促進【再掲】	・スポーツ推進委員の派遣事業などを通じて、誰もが手軽に楽しめる各種ニュースポーツの普及促進に努める
3	スポーツ推進委員の活 動促進	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ推進委員が主体となる事業の展開を図る 資質向上のための研修会へ派遣する スポーツ推進委員派遣事業の周知を図る

(略)

2) 競技スポーツの推進



全国トップレベルの大会、さらにはオリンピックなどの国際大会で本市出身の選手が活躍することは、市民に夢と感動を与えるとともに、市民のスポーツへの関心や意欲を高め、スポーツ活動の推進につながることが期待されます。

本市の誇りとなる競技者が数多く育つよう、ジュニア期からの一貫した指導を視野に入れ、スポーツ指導者やスポーツ団体等と連携し、競技力の向上に対する支援を行うとともに、市民ニーズに対応した指導者の育成を支援します。

【施策】

(1) 競技力の向上

スポーツ選手を育成するため、全国大会等への出場に対する支援を行うとともに、市体育協会や種目別競技協会等と連携し、プロスポーツ選手やトップアスリート、高い技術力のある指導者等から指導を受ける機会の充実に努めます。

また、全国大会や国際大会で活躍するスポーツ選手の競技力強化を図るため、強化試合や強化合宿等への参加に対する支援に取り組みます。

競技力の向上のためには専門的知識を有する指導者の育成が重要であることから、講習会の開催支援などを通じて、スポーツ活動を支える指導者の育成に取り組みます。

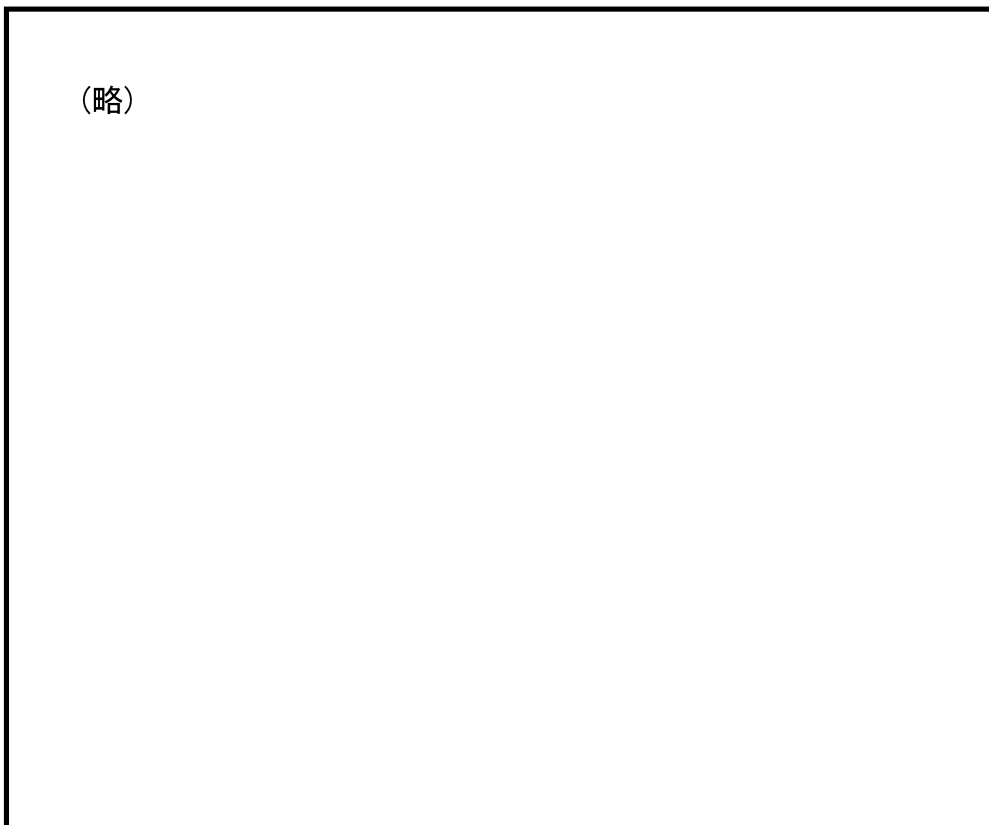
さらに、競技人口の増加を図るため、各種競技スポーツを体験できる機会の創出に努めます。

	主な施策	施策の概要
1	トップアスリートの育成に対する支援	・市を拠点に全国大会や国際大会に出場し活躍するトップアスリートの育成強化を図るため、強化合宿等に要する経費を助成する
2	全国体育大会等への出場に対する支援	・東北規模以上の競技大会に出場する小中学生及び高校生の遠征費を助成する
3	スポーツ講演会等の開催	・著名なスポーツ関係者による講演会や、アスリートによるスポーツ教室を開催する
4	県民体育大会等への出場に対する支援	・県民体育大会、一関・盛岡間駅伝競走大会に出場する選手の遠征費を助成する
5	競技スポーツの体験機会の創出	・種目別競技協会と連携し、各種競技スポーツを体験できる機会を創出する
6	指導者育成に対する支援	・市体育協会と連携し、競技団体等の指導者の育成を支援する
7	市内の高等学校等との連携	・市内の高等学校、高等専門学校、短期大学と、学生の競技スポーツの推進等について話し合う場を設け、連携体制の強化に努める
8	指導者相互の交流の場の創出	・市体育協会や市指導者協議会等と連携を図り、指導者相互の交流の場の創出に努め、更なる競技力の向上に向けた取組等について検討する

(2) 各種大会の開催・支援

一関国際ハーフマラソン大会及び花泉マラソン大会「瀬古利彦杯」の開催に取り組みます。
 また、市内でのトップレベルの大会の開催は、市民のスポーツへの興味関心を高めるほか、選手やスタッフとしての関わり、大会観戦を通じて意欲や競技力の向上につながることから、全国規模の大会の誘致等に対する支援に取り組みます。

	主な施策	施策の概要
1	各種大会の開催・支援	<ul style="list-style-type: none"> 一関国際ハーフマラソン大会、花泉マラソン大会「瀬古利彦杯」を開催する 種目別競技協会等が誘致または主催する大会の開催を支援する 市内への宿泊を伴う東北規模以上の大会の開催を支援する



3) スポーツ団体等の育成・支援



市民の主体的・継続的なスポーツ活動を推進するため、市体育協会等スポーツ団体の組織の充実強化を図るとともに、スポーツ活動を支える団体や人材の育成・確保に努めます。

【施策】

(1) 市体育協会等スポーツ団体の支援

市体育協会が本市のスポーツ推進の中核として十分な活動が行えるよう、組織の強化や活動に対する支援に努めます。

また、市体育協会と連携し、種目別競技協会が行う競技の普及、選手強化、指導者の資質向上などを図る活動の支援や、地区体育協会が行う地域住民のスポーツ活動を推進する事業の支援に努めます。

	主な施策	施策の概要
1	市体育協会の組織強化・活動の支援	・市体育協会の運営や活動に要する経費を補助する
2	種目別協会及び地区体育協会の活動支援	・市体育協会と連携し、種目別競技協会及び地区体育協会が行う活動を支援する

(2) スポーツ少年団の活動支援

スポーツ少年団は、スポーツ活動を通じて青少年の健全育成や競技力の向上などに貢献しており、子どものスポーツ活動の推進に欠かせない存在となっています。しかしながら、活動する団員は減少傾向にあることから、市体育協会や種目別競技協会と連携し、スポーツ少年団への加入促進や指導者・リーダーの確保なども含めたスポーツ少年団活動の支援に努めます。

	主な施策	施策の概要
1	スポーツ少年団の活動支援【再掲】	・一関市体育協会や種目別競技協会と連携し、スポーツ少年団の活動を支援する

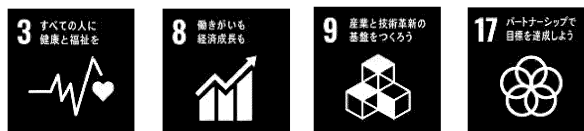
(3) 総合型地域スポーツクラブの設立・育成支援

少子化が進み、学校単位での部活動等が難しくなっていること、また、学校の働き方改革を踏まえた中学校の部活動改革などにより児童・生徒のスポーツ活動の場が変化していることを背景に、地域住民が主体的に運営する総合型地域スポーツクラブが果たす役割に対する期待が大きくなってきています。

地域のニーズに対応した新たなクラブ設立への支援を行うとともに、クラブに対する市民の関心を高め、積極的な利用が図られるよう、種目別競技協会や地区体育協会と連携し、クラブの育成や地域への定着を支援します。

	主な施策	施策の概要
1	総合型地域スポーツクラブの設立・育成支援	・新たな総合型地域スポーツクラブの設立及び活動を支援する ・既設の総合型地域スポーツクラブとの連携を強化し、活動を支援する

4) スポーツ交流の推進



スポーツ大会、スポーツイベント、合宿等を通じた交流は、スポーツの推進はもとより、地域資源の有効な活用により地域の魅力を全国に発信するとともに、交流人口の拡大や地域経済の活性化などの様々な効果をもたらします。

本市は、東北新幹線や東北自動車道の高速交通網が備わり、首都圏をはじめ他地域からアクセスの良い恵まれた立地条件にあり、また、栗駒山や室根山、北上川など豊かな自然を有することから、本市の地域資源を生かしたスポーツ交流を推進します。

【施策】

(1) スポーツツーリズムの推進

「一関国際ハーフマラソン大会」や「花泉マラソン大会『瀬古利彦杯』」など既存のスポーツイベントや、一関・平泉バルーンフェスティバル、室根地域のパラグライダー、藤沢地域のモトクロスなど、地域の魅力や資源を生かしたスポーツツーリズムを推進し、市外、県外からの参加者や観戦者を増やし、交流人口の拡大を図ります。

また、スポーツツーリズムを推進するため、観光分野との情報共有や連携を図るとともに、いわてスポーツコミッションとの連携を強化します。

	主な施策	施策の概要
1	競技協会や観光団体等との連携	・一関市観光協会、一関商工会議所、競技協会等と連携を図り、情報共有と協議の場を持ちながらスポーツツーリズムの推進に努める
2	いわてスポーツコミッションとの連携	・いわてスポーツコミッションが行う合宿相談会に参加し、大学等のスポーツ部の合宿交流を推進する
3	大規模なスポーツ大会・イベントの誘致	・競技協会等と連携を図りながら、大規模なスポーツ大会やスポーツイベントの誘致に努める ・市内への宿泊を伴う東北規模以上の大会の開催を支援する
4	スポーツ合宿の促進	・市内でスポーツ合宿を行う大学等の団体に対して、合宿に係る経費を助成する ・スポーツ施設のPRを行うとともに、市内宿泊施設と連携し情報発信に取り組み、合宿誘致に努める

(2) スポーツ大会・イベントの誘致

市体育協会、種目別競技協会、観光団体等と連携してスポーツ大会などの誘致に取り組みるとともに、各団体等が行う誘致活動への支援などに努めます。

	主な施策	施策の概要
1	大規模なスポーツ大会・イベントの誘致【再掲】	・市体育協会や種目別競技協会等と連携を図り、大規模なスポーツ大会やスポーツイベントの誘致に努める ・市内への宿泊を伴う東北規模以上の大会の開催を支援する

2	競技協会や観光団体等との連携【再掲】	・一関市観光協会、一関商工会議所、競技協会等と連携を図り、情報共有と協議の場を持ちながらスポーツツーリズムの推進に努める
---	--------------------	--

(3) スポーツ合宿の誘致

市内のスポーツ施設の有効活用を図るとともに、市民の競技力の向上や交流人口の拡大を図るため、いわてスポーツコミッション、スポーツ団体、市内宿泊施設などと連携し、合宿誘致に取り組みます。また、合宿を受け入れる地域との交流を促進するため、受け入れ団体の支援に努めます。

	主な施策	施策の概要
1	いわてスポーツコミッションとの連携【再掲】	・いわてスポーツコミッションが行う合宿相談会に参加し、大学等のスポーツ部の合宿交流を推進する
2	スポーツ合宿の促進【再掲】	・市内でスポーツ合宿を行う大学等の団体に対して、合宿に係る経費を助成する ・スポーツ施設のPRを行うとともに、市内宿泊施設と連携し情報発信に取り組み、合宿誘致に努める
3	スポーツ合宿の受入体制の整備	・大学等のスポーツ部の合宿を受け入れている自治会等の団体に対し、環境整備や地域交流に係る経費を助成する
4	観光団体等との連携	・一関市観光協会、一関商工会議所等と連携を図り、情報共有と協議の場を持ちながらスポーツツーリズムの推進に努める

(略)

5) スポーツ施設の利用促進



既存施設を最大限に活用して、安全で利用しやすいスポーツ施設の整備を行うとともに、利用者のニーズに対応した適切な管理運営に努めます。

【施策】

(1) スポーツ施設や設備の整備・充実

スポーツ施設利用者が、安全で安心して活動できる環境を提供するため、老朽化が進む施設や設備の計画的な改修を行います。

また、人口減少や少子高齢化が進む中で、スポーツ施設の見直しを検討します。

	主な施策	施策の概要
1	安全安心な施設の整備	・安全で安心してスポーツ活動ができるよう、必要に応じ既存施設の整備・改修を行う
2	スポーツ備品等の整備	・スポーツ施設に必要な備品を整備する

(2) 利用者のニーズに応じた管理運営

指定管理者による施設管理のメリットを活かし、専門性、柔軟性を発揮した市民ニーズへの対応を行いながら、効率的、効果的な管理運営に努めます。

	主な施策	施策の概要
1	安全安心な施設の整備 【再掲】	・安全で安心してスポーツ活動ができるよう、必要に応じ既存施設の整備・改修を行う
2	施設の効率的な活用と 利用促進	・効率的な利用が図れるよう、利用予約システムの有効活用と利用促進を図る

(3) スポーツ施設の効率的な利用促進

市広報誌やホームページなどを活用し、施設の利用案内等の情報発信を行うとともに、より利便性が図れるよう公共施設予約システムの見直し等を行い、施設の効率的な利用を促進します。また、スポーツ施設の開放日を設けるなど、気軽に施設が利用できる機会の提供に努めます。

さらに、市民の身近なスポーツ活動の場として、市教育委員会と連携して学校体育施設の活用を進めます。

	主な施策	施策の概要
1	スポーツ関連情報の提供【再掲】	・市広報誌、市及び市体育協会のホームページなどを活用し、スポーツに関する様々な情報を提供する
2	施設の効率的な活用と 利用促進【再掲】	・効率的な利用が図れるよう、利用予約システムの有効活用と利用促進を図る
3	スポーツ施設の開放【再掲】	・スポーツ施設の開放日の設定などにより、スポーツを始める機会の創出と、施設の周知、利用促進を図る
4	学校体育施設の開放	・市民の身近なスポーツ活動の場として、学校体育施設の開放と利用促進を図る

第5章 計画の推進

- 1 計画の達成度を測る指標
- 2 計画の推進体制
- 3 計画の進行管理
- 4 新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた事業の推進

第5章 計画の推進

1 計画の達成度を測る指標

(1) 一関市総合計画後期基本計画 「スポーツ・レクリエーション活動の推進に係る主な指標」

	指 標	単位	現状値	目標値 【令和7年度末】	備考
1	スポーツ教室等への市民の参加率	%	令和元年度 14.8	20	現状値に対して概ね5%の増を目指す
2	1人当たりの市スポーツ施設利用回数	回	令和元年度 6	6	感染症の影響を踏まえ、現状数値の維持を目指す
3	市外の選手も参加するスポーツ大会参加者数	人	令和元年度 23,294	23,300	感染症の影響を踏まえ、現状数値の維持を目指す

(2) 本計画で設定する指標

	指 標	単位	現状値	目標値 【令和7年度末】	備考
1	市民のスポーツ実施率	%	令和2年度 28.8	40	現状値に対して概ね10%増を目指す
2	全国体育大会等出場補助金の交付件数	件	平成30年度 79	90	現状値に対して概ね10%増を目指す
3	市内で開催される東北規模以上の競技大会及びトップリーグ等の競技大会の参加者数	人	令和元年度 20,597	23,000	現状値に対して概ね10%増を目指す
4	合宿促進補助金の交付団体数	団体	令和元年度 12	15	現状値に対して概ね25%増を目指す

2 計画の推進体制

計画を推進するためには、市民、地域、スポーツ関係団体、学校、民間企業・団体、行政などがそれぞれに役割を分担しながら連携・協働していくことが必要です。

スポーツの推進を担う主な主体とその役割

(1) 市民

市や地域で行われるスポーツ大会・イベントへの積極的な参加、スポーツ大会の観戦や地元チームの応援、スポーツボランティアへの参加など、「する」「みる」「ささえる」といった様々な形でスポーツに参画することが期待されます。

(2) 自治会、地域協働体、市民センター

地域住民を主体とした様々な活動にスポーツを取り入れ、市民が気軽にスポーツに親しむ機会を提供するとともに、スポーツを通じた地域交流や仲間づくりを推進する役割が期待されます。

(3) 市体育協会、スポーツ少年団、種目別競技協会、地区体育協会

行政と各団体とが相互に連携し、市民が生涯を通じてスポーツに親しむ機会の充実を図るとともに、市民の体力づくりや健康づくりの実践、競技スポーツ等の普及、競技人口の拡大、競技力の向上などを推進する役割が期待されます。

(4) スポーツ推進委員

指導者としての知識や技術の習得に努めるとともに、地域におけるスポーツ活動のリーダーとして、地域住民へのスポーツの実践の啓発やきっかけづくり、実技指導などの役割が期待されます。

(5) 総合型地域スポーツクラブ

地域住民が主体となって運営している特性を活かして、地域住民の興味・関心やレベルに応じた様々なスポーツ活動を継続的に行える場や機会を創出する役割が期待されます。

(6) 学校

学校体育活動を通じて、児童生徒の健康の保持増進や体力の向上などを図るとともに、地域等と連携を図り、学校教育の一環として運動部活動を推進することが期待されます。また、市立小・中学校においては、市民に学校体育施設を開放し、より身近にスポーツ活動に親しめる環境を提供することが期待されます。

(7) 民間企業・団体

企業等が持つ人材、知識、情報、施設などの資源を活かした各種スポーツ大会、スポーツ教室の運営・開催などを通じて、市民のスポーツ活動を推進することが期待されます。

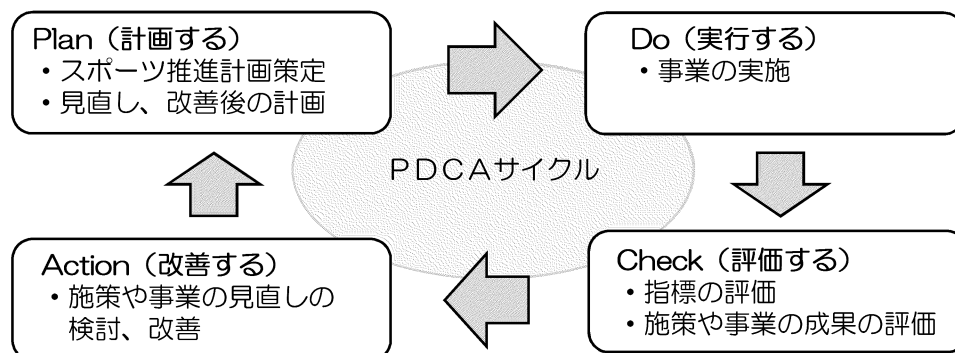
(8) 行政（市）

スポーツ、健康、高齢者福祉、障がい者福祉、学校教育、観光などの担当部署が一体となって、それぞれの分野において各種スポーツ施策を展開するとともに、スポーツ関係団体等と密に連携し、また、県や周辺市町などと情報共有や緊密な協調を図りながら、市のスポーツ施策を推進します。

3 計画の進行管理

計画の推進にあたっては、Plan（計画する）、Do（実行する）、Check（評価する）、Action（改善する）の「PDCA」サイクルで計画の進行管理を行います。

また、市内スポーツ関係団体、学校関係者、まちづくりスタッフなどで構成する一関市スポーツ推進審議会において計画の進捗状況や施策の効果等を検証・評価し、必要に応じて施策や事業の見直し、改善を行いながら、計画の着実な推進を図ります。



4 新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた事業の推進

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、令和元年12月に発生が報告されて以来、世界各地で急速に感染が拡大し、令和2年3月には世界保健機関（WHO）がパンデミック（世界的大流行）を宣言しました。

この感染症は、本市においても個人消費や企業収益、雇用情勢などの地域経済のほか、スポーツ活動全般にも大きな影響を与えています。

このような状況の中、政府は新しい生活様式への移行と実践・定着を提唱しており、本計画の推進にあたっては新しい生活様式を実践するとともに、スポーツ庁が示す「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」などを基に感染予防の対策を講じながら、施策を実施します。